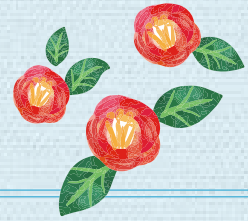


▶ 不妊治療ってどんなことをするの？

不妊治療専門医を受診するときは、夫婦で受診することが大切です。
また、2、3カ月間記録した基礎体温表を持っていくと、治療が円滑に進みます。



検査

- まず最初に、女性の子宮や卵巣、卵管、排卵などの状態を調べます。基本的な検査として、性ホルモンと甲状腺の検査、子宮卵管造影検査を行います。卵管の機能に影響しやすいクラミジア感染症の検査も行います。また、男性も精子の濃度や運動率などさまざまな検査を行います。

治療

ステップ1 タイミング法

- 検査の結果により、男女共にあまり問題がなく、女性の年齢も高くないという場合は、性交のタイミング指導で数カ月様子を見ます。
- 数カ月たっても妊娠しない、もしくは、何らかの問題がある場合、原因に即した治療を行います。

【例】

- 排卵はあるがホルモン状態が悪いとき → ホルモン剤を服用する
- 排卵障害 → 排卵誘発剤を使う
- 排卵通過障害 → 卵管通水術を行う

ステップ2 人工授精 ※1

- それでも妊娠しない場合や男性の精子が少ない場合は、人工授精に切り替えます。

ステップ3 生殖補助医療 (体外受精 ※2) (顕微授精 ※3)

- 人工授精を何回か試しても妊娠しない場合は、生殖補助医療(体外受精、顕微授精)へとステップアップします。

※こうした治療内容は、患者さんと話し合って決めていきます。

※1 人工授精

精液を細いチューブを使って膣や子宮内に注入し、自然な受精を待つ方法。

※2 体外受精

卵巣から採り出した卵子に、運動性のある精子を加えて体外で受精させる方法。しっかり受精が確認され、適当な時期まで育てた受精卵(胚)を子宮に戻す。

※3 顕微授精

体外受精をさらに発展させたもので、卵子と精子が自然に受精しない場合や精子数が少ない場合に行う方法。顕微鏡下で、一つの卵子の細胞質の中に、直接一つの精子を注入するもの。

